

# 2021年度通常枠 PO研修

3. 企業連携や行政連携、事業化の成功事例・あるいは苦労した事例

社会福祉法人全国盲ろう者協会  
伊藤 翔生

# 盲ろう者とは

- ・目と耳の両方に障害を併せもつ人

全国に約1万4000人という希少な障害

- ・目と耳の障害の発症時期・程度によって状態が異なる

先天性・後天性、全盲ろう・弱視難聴など

- ・多様なコミュニケーション手段

音声・触手話・指点字・手書き文字など



### 盲ろう者の地域団体の創業支援事業

目と耳の両方に障害のある**盲ろう者は**、移動やコミュニケーションに困難を抱えている。当事者で構成された地域団体（友の会）に対し、外出時の支援を提供する**同行援護事業**の立ち上げ、盲ろう者の掘り起こしの支援を行う。

盲ろう者  
1万4000人

視覚障害者  
31万2000人

聴覚障害者  
29万7000人

### 実行団体

NPO法人札幌盲ろう者福祉協会  
 NPO法人千葉盲ろう者友の会  
 NPO法人静岡盲ろう者友の会  
**NPO法人香川盲ろう者友の会**  
**NPO法人宮崎県盲ろう者友の会**

静岡、香川、宮崎の3団体  
は事業開始時任意団体



行政と関わる  
場面

事業者（実行団体）

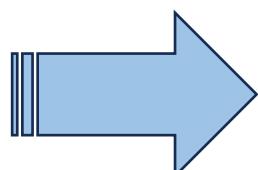
- ・開所するために、必要書類を揃えて所轄の市区町村へ提出、指定を受ける必要がある
- ・盲ろう者の掘り起こしを効果的に進めるためには、所在を知っている行政との協力が必要

適切な利用時間が得られない場合には、  
必要性を訴えていく

利用者

- ・在住する自治体へ利用申請をし、受給者証を発行してもらう必要がある
- ・適切な支援を行うために、障害支援区分の認定を受けることが望ましい
- ・1ヶ月に利用できる時間の上限は、自治体の判断による

担当者も  
わからない  
場合多い



同行援護事業を効果的に進めていくためには、**行政からの理解を得ること、  
協力体制の構築が必要**



## 事例①

## 香川盲ろう者友の会

高松市長への要望

## 課題

## 変化

同行援護

1ヶ月あたりの支給時間30~40時間程度

県外への移動など  
例外の発生する月のみ増やす対応

ブレイルセンス

視覚障害2級及び聴覚障害2級以上

視覚障害2級又は聴覚障害2級以上



## 資金分配団体

理事長

PO

## 実行団体

理事長、理事

地域の盲ろう者  
通訳・介助員

## モノ

他地域の情報

他実行団体の資料

## カネ

休眠預金

他の都道府県において盲ろう者友の会等が設置している同行援護事業所利用者(盲ろう者)の給付決定状況(1か月当たり)

- ・東京都 平均6.1時間 (6時間~160時間)
- ・兵庫県 平均5.1時間 (10時間~100時間)
- ・広島県 平均6.4時間 (40時間~80時間)
- ・大阪府 平均6.7時間 (25時間~100時間)
- ・徳島県 平均3.6時間 (20時間~50時間)
- ・北海道 6.0時間程度
- ・千葉県 5.5時間程度

(全国盲ろう者協会の資料による)

# 事例② 宮崎県盲ろう者友の会

## 宮崎市主催のふくしまつりに参加

- ・開会式の後、直接市長に声掛け
- ・ブースへ訪問  
盲ろう者と直接または通訳を介して交流

アタックの末市長と面会へ

## 宮崎市

- ・同行援護事業所の人員配置について
- ・国の解釈と異なる指導

厚労省に確認

## 市長との面会

- ・15分→1時間ほど
- ・市内の関係各所へパンフレット設置
- ・市内在住の盲ろう者数

## 厚労省からの回答

- ・市役所から厚労省へ問い合わせるよう依頼

# 大切にしていること

- ・長にアタックすることの重要性
- ・当事者にも同行してもらう  
通訳の様子も含め、生の声を伝える
- ・地道な活動だが、繰り返し社会に訴えていく
- ・企業との連携?  
タイアップ、寄付等 うまくつなげている例があれば教えてください